

ボランティア



発行 (福)大阪府社会福祉協議会
大阪府ボランティア・
市民活動センター

Osaka

Vol.47
2007 Winter



特集

シニアが取り組む市民活動

～団塊世代のリタイアが始まる2007年を迎えて～



ZOOM UP! このボラセンの 広報戦略

駅前にボランティアセンターが オープン

泉佐野市社会福祉協議会ボランティアセンター

南海本線泉佐野駅から徒歩3分、商店街の一角にある、「駅前ボランティアセンター」。泉佐野市社協ボランティアセンターが2006年4月に、泉佐野市商店街のふれあいセンターの一角にオープンしたものです。



納田かおりさん

「これまでボランティアさんが集まって活動できる場所がなかったためにスペースの確保が課題になっていました。幸い泉佐野商業会連合会の協力を得て、駅に近い商店街の入り口に設置することができ、便利になったと喜ばれています」と、同センターの納田かおりさん。

駅前ボランティアセンターでは、週3日、ボランティアさんが市民からのさまざまな相談や問い合わせに応じたり、情報提供を行っています。

「便利な場所に拠点ができたことで、ふらっと立ち寄ってくれる人もあるので情報発信力を高めていくとともに、初心者向けのボランティア入門講座などもここで開きたいと計画しています」と。



駅前ボランティアセンターで小物作り

同センターでは、年2回発行される社協だよりと、泉佐野市の広報紙にボランティア情報を掲載してきましたが、一方的に情報を伝えるだけでは限界があると感じていたといいます。それだけに買い物帰りに気軽に立ち寄れる好立地のボランティアセンターがオープンしたことで、市民に直接さまざまな情報発信ができるため、活動のより一層の活発化が期待されています。

手づくり掲示板で ボランティア情報を発信

柏原市ボランティア・市民活動センター

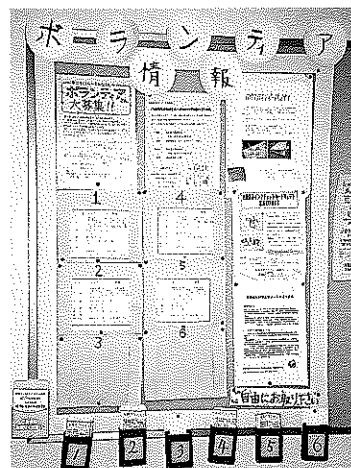
柏原市ボランティア・市民活動センターは、柏原市健康福祉センターの3階にあり、一般市民が数多く訪れます。そこでボランティア情報をわかりやすく広報したいと、ユニークな手づくり掲示板が張り出されています。気に入った情報があれば、そのチラシを持ち帰ることができるように工夫されているので、職員に内容などをわざわざ確認する手間が省けると好評です。掲示板と同じ内容の情報をHPでも閲覧できるようにしています。

また月1回柏原市から発行されている「広報かしわら」や、年4回発行される柏原市社会福祉協議会の「社協かしわら」にも、ボランティア情報を掲載。さらに、市内には福祉系の大学があるため、学生向けにメールでボランティア情報を発信するなど、さまざまな機会を活用して市民に情報提供を行っています。

「できるだけ多くの市民にボランティアに参加してほしいので掲示板、HPやメール、広報紙など利用できるものは何でも使ってお知らせするようにしています。いつも最新情報が手に入るよう情報の更新には気をつけ、新鮮な“とれたて”情報を提供できるように気をつけています」と、同センターの中澤照美さんは話していました。



中澤照美さん



毎回6件のボランティア情報が張り出され、下に同じ番号のチラシが入られ、自由に持ち帰ることができるように工夫された掲示板

特集

シニアが取り組む市民活動

団塊世代のリタイアが始まる2007年を迎えて

団塊世代がいつせいに企業社会を卒業する2007年を迎えました。残間里江子さんが著書『それでいいのか蕎麦打ち男』（新潮社）で述べているように、この世代が現役引退後、自分の趣味の世界に入ってしまうのか、それともボランティアや市民活動の世界に入ってくるかは、その数の多さから大きな社会的関心事になっているようです。

同時に、この世代は戦後の民主教育を受け、ある種の革新性を身につけていることから、わが国において「新しいシニア像」を切り拓いていくのではないかと、とも言われています。それは、「衰退」を意味する「加齢」ではなく、プロダクティブ・エイジングと言われるように、「社会との関わりを旺盛に求める」アクティブな加齢であり、活動的なシニアのイメージです。

しかしそこに必要なのは、そんな世代を迎え入れる社会の受け皿です。今回の特集はそんな視点をベースに、「シニアと市民活動・ボランティア活動」について考えてみたいと思います。



子どもたちの笑顔が

この活動の醍醐味です

完治率は95%

ボランティアグループ「いばらきおもちゃ病院」の結成は、2003年の6月に、代表の須磨邦男さんが一つの新聞記事を目にしたのがきっかけでした。

「日経新聞ですが、おもちゃ修理にシニアが活躍しているというもので、それを見て私は、これだ!と思ったんです。もともと工作が好きだったこともあり、さっそく茨木市ボランティアセンターに相談



し、おもちゃ修理のグループを立ち上げました」と須磨さん。

メンバー（ドクター）も徐々に増えて、現在はシニア層を中心

に12名。毎月第4土曜日に、茨木市福祉文化会館（第一病院）と茨木交流俱樂部（第二病院）で「診療」にあたっています。（材料費以外は無料）

昨今のことですからIC（集積回路）を内蔵した玩具も多く、当初は「眺めるばかりでため息をつくことも多かった」そうですが、そんなときにメンバーに加わったのが藤原祥隆さん。大手電子部品メーカーのOBで電子技術の知識もあり「彼の参加で完治率が格段にアップしました」ということです。病院の「開院」からの「患者数」の総数は354人（件）。そのうち「治癒」しなかった（修理できなかった）ものは19件とのことです。完治率は約95%。相当なものと言えそうです。ものによっては「入院措置」（1ヵ月間の預かり）となる場合もありますが、大半はその場で修理しており、心配そうに眺めていた子どもの顔が、おもちゃがなおったとたんにパッと明るくなっ



たとき「この活動のやりがいを感じる瞬間です」と皆さん口を揃えます。

パズルを解くような面白さがある

サラリーマンOBが多い団体ですが、矢野修さんと服部和美さんは公務員OB。「子どもたちから、おじいちゃんありがとう、なんて言われると、本当に嬉しくなりますよ」と服部さん。一方、居住するマンションの隣人からおもちゃ病院の活動を聞いたという矢野さんは、「ドクターになれるということを手を上げました（笑）」と言いながら、「ここでは現役時代の肩書きなどは一切関係なし。サラリーマン時代はどうしても縦の関係になりますが、ボランティアの世界は、メンバー全員が平等な

横の関係です。代表の抜群のリーダーシップもあって、いつもワイワイガヤガヤ、みんなで楽しくやっています」と語ります。

メンバーのご家族の協力もあり、「私の連れ合いはよく、ご近所から壊れたおもちゃを預かってくるんです。いわば、おもちゃ病院の営業マン。ありがたいことです」と藤原さん。代表の須磨さんは「とにかく、強制しない、自由、が、この会のモットー。メンバーに聞くと、みんな昔の会社仲間からうらやましがられているそうです。素敵な活動の場を見つけられましたね、と。おもちゃの修理は、ある種、パズルを解くような知的な面白さがあるんです」と、この活動の魅力を語ります。シニア世代の生き生きとした表情が印象的なボランティアグループです。



おもちゃ修理は「頭の体操」にもなるそうです



相談会はボランティアセンターと国分図書館で月に一度ずつ開かれています

柏原市ボランティア・市民活動センター

定年退職者向けに

「ボランティア相談会」を開催

相談会そのものが ボランティア活動へつながる

柏原市ボランティア・市民活動センターでは、月2回、「定年後のボランティア活動相談会」を開いています。2005年11月からスタートした相談会は、当初、参加者ゼロという日もあったといいますが、いまでは毎回7～8人が集まるようになりました。

「定年後にボランティアを始めたい」と思っている人は多いはずですが、いざとなると最初の一步を踏み出すきっかけをみつけないようです。そこで気軽にいろいろな話しができるサロンのような相談会を開きたいと思って始めました。すぐにボランティアにつながらなくても、参加してもらっただけでも意味があると思っています」と、同センターの中澤照美さん。月2回の相談会は、いまでは毎回楽しみにして参加される方もあり、茶菓子を食べながら

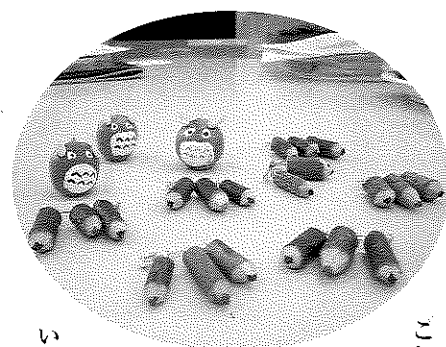
なごやかな雰囲気で行われています。

「地域とのつながりが少ない定年退職者は、自分の居場所を新たにみつめることが難しく自宅にこもりがち。しかしそれまでの仕事で得た豊富な知識と経験を地域活動に活かしてもらえば、生きがいの発見にもつながるのではないかと思います。そのため参加者にはどんな仕事をされていたか、得意なこと、趣味などを聞いてその方が興味をもてるようなボランティアグループを紹介するようにしています」と中澤さん。同センターの登録ボランティアグループは現在58グループ。紹介したグループに向いて、見学したり、話を聞きに行く人も多いといいます。

また、ボランティアを身近に感じてもらうため、すでに活動をしている先輩ボランティアからその体験談などを聞くことも行われています。

最近では、相談会によく参加される方には、受付や記録係を依頼したり、

相談会の合い間に参加者の方が、自主的に手づくりした小物。"おみやげ"として、参加者にプレゼントされることも



これまで中澤さんが1人で対応していたことにも協力してもらったようになりました。

さらに、参加者の何人かが集まって、自然観察の会を立ち上げようかという話を持ち上がるなど、相談会そのものが新たなボランティア活動へとつながり始めています。

市内の企業を訪問し、 ボランティアへの参加を 呼びかけ

同センターでは団塊世代が大量に定年退職しはじめる時期を目前に控えて、2006年秋から市内の企業を訪問し、ボランティアへの参加を呼びかける活動も始めました。

「待っているだけでなくこちらから企業に向いて、より多くの参加を呼びかけたいと始めたのですが、どの企業もとても協力的。相談会の告知を社員に回覧してくれたり、退職時に資料を渡してあげると約束してくださる会社もあります。退職前に少しでもボランティアのことを考える機会をもってもらえれば、つぎの行動へとつながるのではないかと期待しています」と。同センターではこれからも積極的に企業訪問を続けていく考えで、シニアボランティアの広がりが大いに期待できそうです。

「安心して暮らせる住まい作り」をめざして

商店街のなかのリサイクルショップ

JR学研都市線、野崎駅から野崎観音に続く参道商店街の一角に小さなリサイクルショップがあります。NPO法人「住まいみまもりたい」が運営する「もったいない情報サロン」。着物や洋服、人形や額に飾られた絵画や写真、食器に花瓶、さまざまな小物類に消火器まで、いろんなものが所狭しと並べ



シニアの皆さんもボランティアで活動を支えます

られています。「大半は高齢者宅から出た不用品なんです」と法人の代表、吉村悦子さん。商店街にあるのでお店を覗く人も多く、また店内ではお年寄りや子どもたちが小物づくりに取り組むなど、まさに街の小さなコミュニケーションサロンといった趣です。

「住まいみまもりたい」は平成16年、住まいについての悪質商法がはびこるなか、高齢者らがこれらの被害にあわ

ないためにも「住まいに関する適切な相談窓口が必要」と考えた吉村さんらによって設立されました。リフォームや修理についての相談に乗り、必要とあれば地元の安心できる業者さんを紹介したり、またゴミ問題や環境問題についての講座を開くなどの活動を展開してきました。

そんな活動のなか、入院や引っ越しなどで高齢者から粗大ゴミの処分を依頼されるケースも多く、なかには「捨てるにはもったいない」物もたくさんあることから、吉村さんはこのリサイクルショップを思いついたと言います。でも、NPOですからお店を構える資金はありません。そんなとき大東市から、内閣府の都市再生モデル調査事業のことを紹介され、応募したところ助成が決定。それを資金に「もったいない情報サロン」は野崎参道商店街にオープンしました。

CB（コミュニティ・ビジネス）という手法

NPOの設立から2年あまりで地元商店街にショップを開設するまでになった吉村さんですが、それまではPTAの活動経験こそあれ、ごくフツウの主婦でした。そんな彼女が市民活動に目覚めたのは、大阪府のCB（コミュニティ・ビジネス）関連の講座を受講したことがきっかけでした。CBとは、



ビジネスの手法で社会的ニーズにボランティアに取り組みもうというものです。が、以前より高齢者が悪質リフォーム商法などの被害にあっている

ことに義憤を抱いていた彼女は、講座受講後、さっそく「安心して暮らせる住まい作り」をCBとして立ち上げることを決意。「たとえば、介護のことならケアマネジャーさんに相談できますが、防犯・住まいに関する総合的な相談窓口はありません。でも、それを必要としている人は大勢いる。ならば私たち市民が、そうした相談窓口を作ろう」と思ったわけです。

今では、趣旨に賛同する地元企業の応援も受けて、「住まいみまもりたい」の活動は大きく広がっています。ボランティアで活動を支える人も多く、なかにはシニア世代の人も少なくありません。「得意の日曜大工や、編み物が好きな男性もいて、皆さんがいろんな形で法人を支えてくださっています」と吉村さん。いまでは大東市になくはないらしい団体であり、活動として、地域にしっかり根をおろしているようです。

豊中市 企業・団体ボランティアネットワークとよなか

サラリーマンOBが相談にあたる 「定年後のボランティア相談会」

その人に合った
活動メニューを紹介

阪急「岡町」駅から豊中市役所につづく商店街のなかにある、豊中社協のボランティア活動推進センター「ぷらっと」。ここを拠点に活動する「企業・団体ボランティアネットワークとよなか」（略称：Vネットとよなか）は平成11年、大阪府内では初の、企業の事業所などが集まるネットワークとして結成されました。以来、企業の社会貢献活動事例集の発行や、社会人向けのボランティアスクールの開講、ボランティア体験プログラムの実施、企業からのボランティア活動の相談にあたるなど多彩な活動を展開してきました。

そんな「Vネットとよなか」が、3年前からスタートさせたのが、シニアサラリーマン（含むOB）を対象とした「定年後のボランティア相談会」。毎月の第一金曜日に、それまでは地域活動とは無縁であったシニア層のボランティア相談にあたっています。



左から廣瀬さん、酢谷さん、山元さん

コーディネーターは、ネットワークの役員をつとめる個人会員の皆さん。活動相談にくる人たち一人ひとりに、「何をしたいのか」「何ができるのか」を尋ねながら、その人に合った活動メニューを紹介し、市内のさまざまな団体につなげています。

「皆さんに申しあげるのは、好きなことを、好きなときにやるのがボランティア。何も特別な活動ではないんですよ、ということですよ」と語るのは廣瀬

眞信さん（71歳）。このプログラムが立ち上がったときの豊中市社協事務局長で、いわば仕掛け人です。

一方、「最初はみんな初体験だから、趣味を活かした活動から始めればいいんです。まずは肩の力を抜いて、とアドバイスします」と言うのは山元弘久さん（67歳）と酢谷公爾さん（65歳）。

二人とも企業を定年退職したサラリーマンOBですが、この3人に同じくメーカーを退職した松本正宏さん（69歳）を加えた4人が、毎回ペアを組んで相談にあたっています。これまでの来訪者は60人を越え、男女比はおおよそ6対4とか。実は酢谷さんは山元さんが相談にあたった来所者で、いまでは相談員として活躍していますが、「このような方を発掘するのが私たちの仕事であり、またやりがいでもあるんです」と山元さん。

「ウォーミングアップ期間」があったほうがいい

これまでさまざまなシニアを活動につなげてきましたが、なかには、「海外旅行の付き添い」というボランティアに手を挙げて、無事に帰国までサポートされたという活動初心者の事例も。語学力を活かしての活動でしたが、依頼者さんだけでなくボランティアさんも大満足。こうしたときの「双方の満



足」が「私たちの満足です」と3人は語ります。

来所者の多くはすでに企業を退職したサラリーマンOB・OGですが、なかには退職を間近に控えた団塊世代もあり「こうした現役世代の皆さんにも、もっと来てほしいですね」と廣瀬さんたち。というのも「毎日日曜日になる定年後に初めて来ていただくより、それまでにウォーミングアップを兼ねて気軽に入力していただいていたほうがいい。企業の文化と市民活動の文化に慣れていただくためにも、一定のウォーミングアップ期間があったほうがいいです」と皆さん。

2007年を迎えて、これからは「ぷらっと」を訪れる団塊世代が増えそうです。

コミュニティの

「よろず市民相談所」的な

役割を担いたい



昨年の退職準備セミナーとクリーンキャンペーン



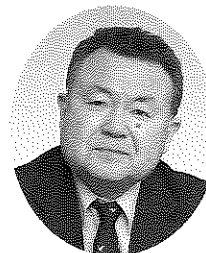
団塊世代を

「地域社会の資産」に

いわゆる2007年問題への対応は、行政や企業だけでなく、労働組合にもまた求められているようです。

連合では昨年、全国481カ所にある地域協議会（以下・地協）のなかから106をモデル地域に指定し、コミュニティの「よろず市民相談所」的な機能を持たせるといふ運動方針を打ち出しました。大阪では3つの地協が指定され、その一つが大阪南地域協議会。

堺市以南の9市4町に300単組、約4万人の組合員をかかえる組織です。「モデル事業は動き始めたばかりですが、団塊の世代を意識したものであるのは間違いありません。サラリーマンも、退職すれば職域労組から離れて



平田茂徳さん

地域に帰ります。地域協議会は、そのときの受け皿にならなければ」と大阪南地域協議会事務局長の平田茂徳さん。「しかし」と平田さんはこう続けま

す。「これは単に、団塊世代の人たちへのサービス提供だけを考えたものではありません。この世代の方々の経験を地域社会の資産として位置づけ、多彩なボラン

ティア活動などに取り組んでいただくことによって、地域が抱えるさまざまな問題の解決をも目指したい。いま地域コミュニティは、高齢者介護の問題、子育ての問題、ニート・フリーターの問題、治安の問題……と、さまざまな問題を抱えています。こうした問題の解決をめざしながら、労働組合のない中小企業や商店で働く人たち、また市民の皆さんからのさまざまな相談にも対応する、いわば地域の『よろず市民相談所』的な役割を私たち地協が担っていきたくと考えているわけです」。

労協協主催の

「退職準備セミナー」なども

すでに大阪南地域協議会ではこれまでに、仲間組織である大阪南労働協や堺経営者協会などと一緒にクリーンキャンペーン（清掃活動）や、地域の勤労者を対象としたテーブルマナー講習会などのコミュニティ活動に取り組んできましたが、団塊世代の大量退職を控え、今後はこうした地域活動

にさらに力を入れていきたいと話します。

2月10日に予定されている「退職準備セミナー」もそうしたものの一つで、これはまさに団塊世代を対象にした「年金・雇用保険・健康保険・税金に関する講座」で、ここでも仲間組織の近畿ろうきんや全労済から専門家を迎えて開催されます。

今後はこのような、労働組合を「地域に開く」活動を、より積極的に展開していきたいという平田さん。「そのためにも、地域のボランティア団体、NPOをはじめとしたさまざまな市民グループとのネットワークも構築していかなければなりません」とも。

かつて阪神・淡路大震災のとき、連合傘下のいくつかの労働組合はさまざまな支援活動に取り組みましたが、ここで紹介した大阪南地域協議会の動きは、まさに震災支援と同じように、元来は組合員のための「共益的」な組織である労働組合が取り組む「公益的」な活動。取り組みはこれからが本番ですが、今後とも注目していきたい動きです。

1/20 (土)

午後1:30～4:30

エル・おわか

大阪南地域協議会

2/10 (土)

午後1:30～4:30

ユニオンセンター堺

大阪南地域協議会

2/24 (土)

午後1:30～4:30

近畿労働金庫大阪支店

河内地域協議会

4/21 (土)

午後10:00～12:30

大阪市立文化ホール

大阪南地域協議会

大阪府の、「団塊の世代」地域デビュー支援セミナー



昨年の12月、港区のpiaNPOにおいて大阪府主催による「団塊の世代」地域デビュー支援セミナーが開催されました。これは3回の連続講座で、この日はその第1回目。関西国際交流団体協議会の前田佐保さんの「充実セカンドライフのためのNPO入門～NPOという生き方のすすめ～」と題する講演に続き、NPO法人「寝屋川あいの会」理事長、三和清明さんが「現役時代の経験を活かして新しいスタートを！～好きなことで地域貢献～」と題して、ご自身の経験と団塊世代への期待をお話しされました。

地域社会は団塊世代の活躍を待ち望んでいます。

NPO法人「寝屋川あいの会」理事長、三和清明さん

ともに支え合う地域社会にするために…を合言葉に、「寝屋川あいの会」が設立されたのは平成13年。いろいろな三和さんたちは、地域住民同士が助け合って、高齢者、子育て、まちづくり支援などの分野で、多彩な活動を展開してきました。

地域通貨「げんき」の発行もそうした活動の一環で、いまでは寝屋川市商店連合会の協力を得て、多くのお店で使用できると言います。

現役時代、大

手企業でマーケティングを担当してきた三和さんですが、市民活動のきっかけは、市の「行財政改革市民懇談会」に参加したことでした。いろいろ、まちづくりに関心を持つようになりましたが、そんなときにふと気づいたのが、街にあふれる「元氣なシニア」の姿でした。

この人たちが地域を支える側に



まわらなければ、それは大きな社会的損失ではないか？そう考えた三和さんは、3～4人の仲間と一緒に「寝屋川市民NPO研究会」を立ち上げます。それが現在の「寝屋川あいの会」のスタートでした。シニア世代を中心に仲間は徐々に増え、今では126名の活動会員を擁するまでに成長しています。

今後、多くの団塊世代の参加が予想されますが、「定年後、地域活動を始めるとは学生時代にやることだと思っんです」と三和さん。そして「楽しく伸び伸びと生きていたあの頃の夢を、地域活動で実現させたい」と続けます。

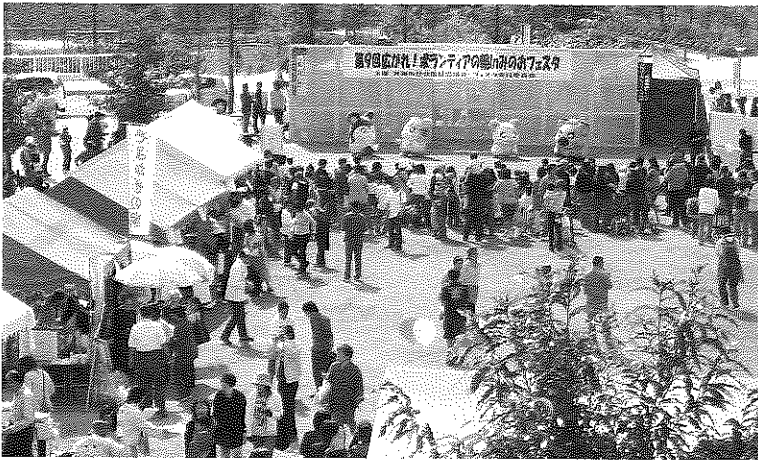
さらに「地域は団塊世代の活躍を待ち望んでいる」とも。「彼らは元氣だし、時間的・金銭的な余裕もある。そして何よりも豊かな経験と知恵がある。彼らが培ってきたビジネススキルを地域社会は必要としています。そして旺盛な好奇心。インセンティブが与えられれば、この世代は市民活動の分野で大きな力を発揮すると思いますよ。」



「しかし…」と三和さん。「企業社会で活躍してきたサラリーマンに必要なのは、まず過去の肩書きをはずすこと。市民団体はフラットな組織ですから、雑用も積極的に買って出るスタンスも必要です。とくに管理職経験者には、無意識の傲慢さが身についている。地域に対して『やってあげる』という考え方は何よりも禁物です」と続けます。

退職してから、中小企業診断士の資格試験に挑戦したというアクティブな三和さん。セミナーに参加した団塊世代の皆さんに、「青春とは心の若さ！」とエールを送り、講演を締めくくりました。

大阪府社会福祉協議会と寝屋川あいの会とは、社会起業家のサポートなどで日頃から連携しています。



かやの広場ステージでの様子

北摂

ボランティアフェスタ いきいき祭り

箕面市

去る10月28日（土）、箕面市内で唯一のボランティアのお祭りである「第9回広がれ！ボランティアの輪 in みのおフェスタいきいき祭り」が箕面市社会福祉協議会・フェスタ実

行委員会の主催のもと開催されました。好天に恵まれ、来場者は約2500名。ボランティアグループ連絡会も実行委員として関わり、当日は焼き芋やフランクフルトの出店を行いました。

今回のイベントは、近隣で開催された「人権まつり」とジョイントし、ステージでの出演や地域通貨の試用、スタンプラリーでお互いに協力しあいました。また、中学生約110名のボランティアの協力があつたりと、内容も盛りだくさんで、大変なにぎわいとなりました。

さらに、企業の協賛により、キャラクター着ぐるみショーが開催され、親子連れも楽しめるイベントとなりました。

次回は第10回目となります。ボランティアグループ連絡会としても、ますますボランティア活動の広がりや発展を目指して、がんばっていききたいと思っております。

河北

河北ブロック交流会を開催

四條畷市

平成18年10月11日に、四條畷市で河北ブロック交流会が開催されました。

四條畷市ボランティア連絡会では、各市のボランティアや職員の方をお迎えするにあたり、「みどり多いこの街で、自然な雰囲気を楽しんでもらいながら交流活動を行いたい」との思いで企画することになりました。

第1部は、知的障害者更生施設「なわて更生園」を訪問させていただき、堀内理事長や上原園長から、設立の経緯や課題などの説明を受けた後、施設内の見学を行いました。



第2部は、河北7市の課題

や今後について意見交換を行いました。

特に、ボランティアフェスタイベントについての報告があり、市内の多様な団体が集い、交流する事による相互理解の重要性や市民の方への啓発を行う機会につながることにフェスタイベントを開催する意義がある

と思いました。

今回の交流会で多様な活動を知ることや出会いがあったことを今後の活動に活かしていきたいです。河北ブロック交流会にお越しいただきましたボランティアや職員のみなさんありがとうございました。



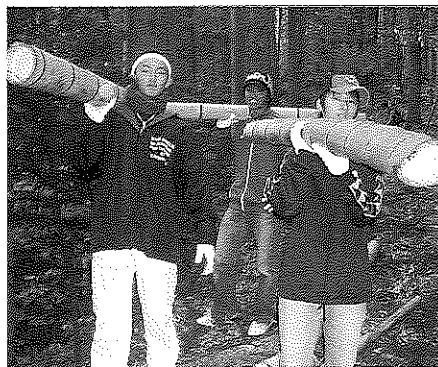
天気予報は「雨」。前日よりテントを張ったりプログラムを変更したりと大変でしたが、当日は「曇り」とまずまずの天気。10時ごろバスで到着した生徒たちは挨拶をし、注意事項を聞いた後、作業に取りかかりました。

小学生は、竹を切ったり割ったりして、竹馬・竹とんぼ・竹炭に折り紙張り等の作業、作った竹馬に乗る子、竹とんぼを飛ばす子、子どもたちは1日中、生き生きと動きまわり、中高生は竹やぶに入り、のこぎりを使った竹伐り、鉋での枝打ち作業に、竹やぶの中は賑やかな声がひびきわたりました。

昼食は地元の米（15キロでおにぎり270個）、野菜を使った豚汁（肉5キロ）の炊き出しをして、楽しい昼食会となりました。

午後からは、全員で窯からの竹炭出しをしました。中に入り炭を出す子、外で受け取る子、顔や手を黒く

文部科学省の「豊かな体験活動推進事業」に、羽曳野市の大阪府立西浦高等学校（岡田昭校長）が小中高生の交流、また「里山の環境問題について考える」を目的に校区内の学校に呼びかけ、11月23日に「竹炭体験学習」を開催しました。中学校1校、小学校2校の約60名の参加があり、この活動に河南町ボランティア連絡会と環境ボランティア「ささゆり」が協力しました。



河南

「豊かな体験活動」を受け入れて

河南町

しながらの作業でした。中学生の女生徒が竹割りのとき、はじめて割れる竹に「スカットした」と言いながら、次々と割っていききました。

危ないからと子どもたちに刃物等を使わさない昨今、鋸、鉋、小刀、ドリル、竹割り機等を使いながらの作業に、けがもなく、楽しい1日を過ごしました。

荒廃した竹やぶでの作業ではありましたが、子どもたちの「また来たい！」との声に、スタッフ（25名）一同、心地好い疲れを感じた一日でした。「竹林の再生」に取り組んでいる我々の活動を、理解してもらえよう機会として、今後もこのような体験事業に協力していきたいと思えます。

泉州

活力の源泉はボランティアサロン

熊取町

熊取ボランティア連絡会は現在、30の福祉ボランティアグループ、計480名で構成されています。グループの種類の豊富なのも特徴です。人口45000人の小さな自治体にしては大きい勢力です。グループ全体が良くまとまり、いきいきと活動しています。

活力の源泉は、毎月1回、定期的に開催されている「ボランティアサロン」での「小物づくり」です。サロンの責任は各グループ持ちまわりで、日程や品目が情報誌で予告されており、毎回ボランティアルームが満杯になるほどの盛況ぶりです。

ここで交わされる「おしゃべり」が、グループを超えた良好なコミュニケーション

ションのものとになり、横のつながりを生んでいます。

また、作られた小物は、福祉バザーや町民文化祭で販売され、最近では出品数も増えて連絡会の財政を潤してくれています。とにかく皆さん仲のよいのが取りえの連絡会です。



府内各市町村の ボランティア フェスティバル 開催予定

貝塚市

第8回 ボランティア フェスティバル in 貝塚

「広げよう みんなで参加 ボランティア」をテーマに、演奏会、作品展・パネル展、模擬店、もちつき大会などを開催。

日時 2月10日(土)

午前10時～午後2時30分

場所 市民福祉センター

問合せ 貝塚市社会福祉協議会

TEL 072(439) 0924

豊中市

第14回 豊中ボランティア フェスティバル

昔懐かしい歌声喫茶を再現した「歌声広場」、福祉体験作文発表、作業所オンス

テージ、手作り介護用品ファッションショー、ファミリーボランティア体験コーナー、手話コーラスなど。

日時 2月11日(祝・日)

午前10時～午後3時30分

場所 豊中市市民会館(阪急曽根駅下車)

問合せ 豊中市社会福祉協議会

TEL 06(684) 9393

河内長野市

第7回 ボランティア・ 市民活動フェスティバル

市民にボランティアや市民活動の必要性や重要性をPRすることを目的に、ステージイベント、展示、フリーマーケット、模擬店などを開催。

日時 2月25日(日)

午前10時～午後4時

場所 河内長野市市民交流センター(キックス)

問合せ かわちながのボランティア活動推進委員会

TEL 0721(53) 1111

阪南市

第3回 ボランティア・ 市民活動フェスティバル in はんなん2007

ステージイベント、ボランティアパネル展、認知症の啓発コーナー、模擬店など

を開催。

日時 3月10日(土)

午前10時～午後3時

場所 サラダホール及びその周辺

問合せ 阪南市社会福祉協議会

TEL 072(471) 5678

大東市

大東市ボランティア フェスティバル

ボランティア連絡会による体験コーナーやスタンパブリ、車椅子ダンスの公演、ミニステージ、模擬店などを開催。

日時 3月11日(日)

午前10時～午後3時

場所 大東市立総合福祉センター

問合せ 大東市社会福祉協議会

TEL 072(874) 1082

泉南市

第3回 泉南市ボランティア フェスティバル

「ひろげよう ふれあいの和」をテーマに、ステージイベント、ミニバザー、パネル展示、模擬店などを開催。

日時 3月11日(日)

午前10時～午後3時

場所 泉南市総合福祉センター(あいびあ泉南)

問合せ 泉南市社会福祉協議会
TEL 072(482) 1027

寝屋川市

ボランティアまつり

ステージイベント、パネル展示、ボランティア体験コーナー、模擬店などを開催。

日時 4月15日(日)

午前10時～午後3時(予定)

場所 総合センター

問合せ 寝屋川市社会福祉協議会

TEL 072(838) 0400

茨木市

第14回 ボランティアの集い みんな集まれ!! ボランティア in いばらき

ステージイベント、パネル展示、ボランティア体験コーナー、模擬店などを開催。

日時 4月29日(日・祝)

午前10時30分～午後3時

場所 茨木市役所前 中央公園北グラウンド

問合せ 茨木市社会福祉協議会

TEL 072(627) 0086





●ファシリテーション・ ことはじめ講習会

最近注目される「ファシリテーション」のワークショップで、「ミーティング・ファシリテーション」をテーマに開催。「会議がうまくいかない」「何度集まっても決められない」「意見が言えない」など、それぞれの考えをまとめるのに「苦労、そんな方はぜひ参加してください」。

日時 夜間コース◇2月1日、8日、15日、22日（いずれも木曜）

の全4日間、午後7時～9時15分（保育あり。事前予約を）
昼間コース◇3月2日（金）、6日（火）、の全2日間、午前10時～午後4時

場所 枚方市立総合福祉会館（ラポールひらかた）4階 大研修室

講師 共生ユニットAPPROACHまづばら ちよんせいこさん

参加費 1コース2000円

（各コース先着30名）

問合せ 枚方市ボランティアセンター

TEL 072（841）0181

FAX 072（841）0182

e-mail hirasyakyo-vc@kat.zaq.ne.jp

●精神保健福祉 ボランティア講座

こころの病気って？ ボランティアって？ 私たちにできることって何かな？ など、みんなで考えてみましょう。

日時 第1日目◇2月21日（水）

午前10時～午後2時30分、第2日目◇2月26日（月） 午

前11時～午後4時

場所 さつきホールもりぐち

対象 守口市・門真市に在住・在学・在勤で、両日とも参加できる方（定員30名程度）

方（定員30名程度）

問合せ 守口市障害福祉課

TEL 06（6992）1221（内線451）、

門真市障害福祉課

TEL 06（6902）6054（直通）

054（直通）

●法人格取得20周年 河南町社会福祉大会

記念式典および記念講演を開催。映画会として「博士の愛した数式」を上映。

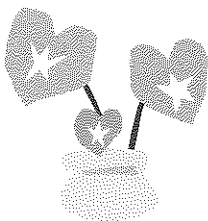
日時 2月25日（日）

午後1時から

場所 ぶくぶくドームぶくホール

問合せ 河南町社会福祉協議会

TEL 0721（93）6299



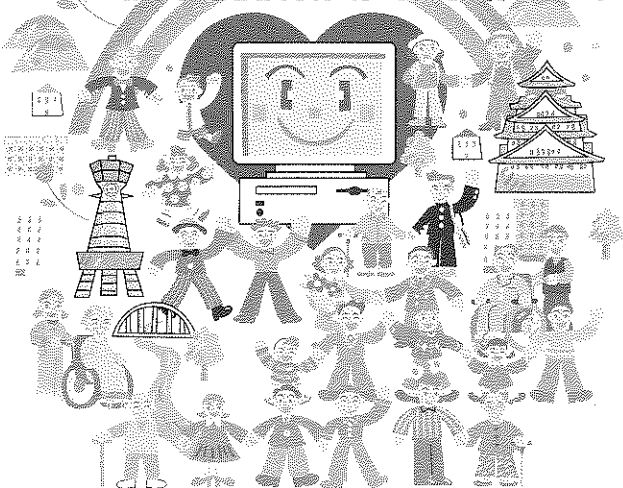
ボランティア情報満載

大阪ボランティア情報ネットワーク

<http://www.osakafusyakyo.or.jp/ovn/>

たくさんのアクセスをお待ちしています

OSAKA VOLUNTEER
INFORMATION NETWORK



開所時間変更のお知らせ

大阪府ボランティア・市民活動センターは昨年11月より、下記の通り開所時間を変更させていただいております。ご利用の際にはお間違えのないようお願いいたします。

水曜日・金曜日 9:00～17:00

それ以外の曜日については変更ありません。

火曜日、木曜日は9:00～21:00まで。

月曜日・土曜日は9:00～17:00まで。

日・祝日・第5土曜日・年末年始は開所していません。

●ボランティア・市民活動センター内の閲覧スペース、インターネットによる情報検索・印刷機・コピー機・資料貸し出し等の利用については、開所時間内であれば従来どおり利用できます。

●登録ボランティアグループによるボランティアルームの使用に関しても従来どおり利用できます。

大阪府内のボランティアセンター一覧

大阪府ボランティア・市民活動センター

〒542-0065 大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内 TEL: 06-6762-9631 FAX: 06-6762-9679

市町村名	所在地	電話	FAX
北 摂			
池田市	563-0041 池田市満寿美町6-23	072-753-8858	072-753-3444
茨木市	567-0888 茨木市駅前4-7-55 茨木市福祉文化会館内	072-627-0086	072-627-0434
島本町	618-0022 島本町桜井3-4-1 ふれあいセンター内	075-962-5417	075-962-6325
吹田市	564-0072 吹田市出口町19-2 吹田市立総合福祉会館内	06-6339-1210	06-6339-1202
摂津市	566-0022 摂津市三島1-1-1 摂津市役所西別館内	06-6318-1128	06-6383-9102
高槻市	569-0067 高槻市紺屋町3-1-303 グリーンプラザ3号館3階	072-683-2200	072-683-2209
豊中市	561-0881 豊中市中桜塚2-28-7 豊中市立福祉会館内	06-6848-1000	06-6841-2388
豊能町	563-0101 豊能町吉川187 町立保健福祉総合施設豊悠プラザ内	072-738-5370	072-738-0524
能勢町	563-0341 能勢町宿野114	072-734-0770	072-734-2623
箕面市	562-0036 箕面市船場西1-11-35	072-749-1535	072-727-3590

河 北			
交野市	576-0034 交野市天野が原町5-5-1 交野市立保健福祉総合センター内	072-894-3737	072-894-3737
門真市	571-0064 門真市御堂町14-1 門真市保健福祉センター内	06-6902-6453	06-6904-1456
四條畷市	575-0054 四條畷市中野新町11-31 四條畷市立福祉コミュニティセンター内	072-878-1210	072-878-6888
大東市	574-0037 大東市新町13-13 大東市立総合福祉センター内	072-874-1082	072-874-1828
寝屋川市	572-0036 寝屋川市池田西町28-22 寝屋川市立総合センター内	072-838-0400	072-838-0166
枚方市	573-1191 枚方市新町2-1-35 ラポールひらかた内	072-841-0181	072-841-0182
守口市	570-0083 守口市京阪本通2-13-1 さつきホールもりぐち内	06-6992-2715	06-6993-0134

河 南			
大阪狭山市	589-0021 大阪狭山市今熊1-85 大阪狭山市福祉センター内	072-367-1761	072-366-7407
柏原市	582-0018 柏原市大泉4-15-35 健康福祉センター内	072-972-6760	072-972-6761
河南町	585-0014 河南町大字白木1371	0721-93-6299	0721-93-5299
河内長野市	586-0041 河内長野市大師町26-1	0721-65-0133	0721-65-0143
太子町	583-0991 太子町大字春日963-1 総合福祉センター内	0721-98-1311	0721-98-2111
千早赤阪村	585-0041 千早赤阪村大字水分195-1 保健センター内	0721-72-0081	0721-70-2037
富田林市	584-0037 富田林市宮甲田町9-9 富田林市総合福祉会館内	0721-25-8200	0721-25-8230
羽曳野市	583-8585 羽曳野市誉田4-1-1 羽曳野市立総合福祉センター内	072-958-2315	072-958-3853
東大阪市	577-0054 東大阪市高井田元町1-2-13 東大阪市立総合福祉センター内	06-6789-5550	06-6789-5611
藤井寺市	583-0035 藤井寺市北岡1-2-8 ふれあいセンター内	072-938-8220	072-938-8221
松原市	580-0015 松原市新堂1-589-6 松原市立総合福祉会館内	072-333-0294	072-336-0806
八尾市	581-0018 八尾市青山町4-4-18 サポートやお内	072-925-1045	072-925-1161

泉 州			
泉大津市	595-0026 泉大津市東雲町9-15 泉大津市立総合福祉センター内	0725-23-1393	0725-23-1394
和泉市	594-0041 和泉市いぶき野5-1-7 アイ・あいロビー内	0725-57-0294	0725-57-3294
泉佐野市	598-0007 泉佐野市上町1-2-9 泉佐野市立福祉センター内	072-464-2259	072-462-5400
貝塚市	597-0072 貝塚市畠中1-18-8 保健・福祉合同庁舎内	072-439-0294	072-439-0035
岸和田市	596-0076 岸和田市野田町1-5-5 岸和田市立福祉総合センター内	072-430-3366	072-430-3367
熊取町	590-0451 熊取町野田1-1-8 熊取ふれあいセンター内	072-452-8001	072-452-2658
泉南市	590-0521 泉南市樽井1-8-47 泉南市総合福祉センター内	072-483-0294	072-483-0294
高石市	592-0011 高石市加茂4-1-1	072-265-7600	072-261-9375
田尻町	598-0091 田尻町嘉祥寺883-1	072-466-5015	072-466-8841
忠岡町	595-0812 忠岡町忠岡中2-16-25	0725-31-1666	0725-31-3555
阪南市	599-0292 阪南市尾崎町35-1 阪南市役所内	072-471-5678	072-471-7900
岬町	599-0303 岬町深日3238-24	072-492-0633	072-492-5701

〈参考〉 大阪市社会福祉協議会 大阪市ボランティア情報センター TEL 06-6765-4041
堺市社会福祉協議会 ボランティア情報センター TEL 072-232-5420

ボランティア活動保険 Q&A

ボランティア活動総合補償制度に関するご質問の中で、特にご照会の多いものについて、ご案内いたします。ご加入をご検討の際、ご参考にいただければ幸いです。

Q¹

学校行事については、ボランティア活動保険の対象にならないとききましたが、本当ですか。

A¹

はい、そのとおりです。

学校の教師の職務としての活動や、学校の生徒が学校の管理下中で活動する場合は対象とはなりません。

ただし、教師が休暇などを利用して活動する場合や、生徒が放課後（学校の管理外）、休日に行う活動は対象になります。

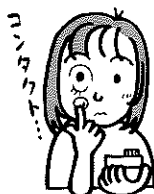


Q²

Aさんは、ボランティア活動中につけていた自分のコンタクトレンズを落としてしまいました。コンタクトレンズを体の一部と捉え、Aさんの加入しているボランティア活動保険の傷害補償で補償することはできますか。

A²

いいえ、できません。コンタクトレンズは、メガネと同じとみなされ、かつAさん（ボランティア本人）の所有物になります。ボランティア個人の所有物は、ボランティア活動保険の対象外となります。



Q³

ボランティア団体の活動に有償活動者を含む場合も対象となりますか？

A³

ボランティア保険に加入することはできますが、有償活動と見なされる活動中の事故は対象とはなりませんのでご注意ください。（活動内容により判断します）

非営利有償活動団体保険へ加入いただければ、団体の活動中であれば無償・有償の区別なく補償しますので、こちらへのご加入もご検討ください。

Q⁴

ボランティア総合補償制度でどこまで食中毒事故が補償されるのか教えてください。

A⁴

食中毒には以下の3種類のものがあります。

①細菌性のもの

（病原性大腸菌・サルモネラ菌・ボツリヌス菌・ブドウ状球菌等による中毒）

②自然毒のもの

（フグ・アサリ・キノコ・青梅等による中毒）

③化学物質によるもの

（メタノール・青酸・ヒ素・鉛等による中毒）

これらの食中毒事故と各保険制度との関係については以下の通りとなっています。

		① 細菌性	② 自然毒	③ 化学物質
ボランティア活動保険	傷害	○	○	○
	賠償	○	○	○
ボランティア・市民活動行事保険Ⅰ型	傷害	×	○	○
	賠償	○	○	○
ボランティア・市民活動行事保険Ⅱ型	傷害	○	○	○
	賠償	○	○	○
非営利有償活動団体	傷害	×	○	○
	賠償	○	○	○
移送中事故傷害保険	傷害	×	×	×
	賠償	—	—	—

傷害保険では②③による食中毒（偶然かつ一時的に摂取し、急激に中毒症状を呈したものに限る）は補償の対象となります。

また①の食中毒で、傷害の部分での補償の対象としているのは、ボランティア活動保険、ボランティア市民活動行事保険のⅡ型となります。

賠償責任がある場合は、①②③いずれも対象となります。

ボランティア・市民活動保険のごあんない

引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

ボランティア活動中の事故に備えて ボランティア活動保険			
補償内容	ボランティアがボランティア活動中に、①偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」、②第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」、③ボランティア活動中に死亡し、「傷害保険」の給付対象にならない場合の「死亡見舞金」の3つの制度がセットされています。		
	傷害部分	Bプラン	Cプラン（天災担保）
		死亡・後遺障害 2,270万円	死亡・後遺障害 1,050万円
		入院（1日あたり）9,000円 通院（1日あたり）6,000円	入院（1日あたり）6,000円 通院（1日あたり）4,000円
		手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額	
賠償部分	対人	対人、対物共通 最高 5億円	
	対物	対人、対物共通 最高 5億円	
	見舞金	死亡 30万円	死亡 30万円
保険料			
加入できる人や対象となる活動			
保険有効期間			

各種イベント参加者の補償に ボランティア・市民活動行事保険			
補償内容	ボランティア団体や各種の市民団体が主催する行事の参加中に、①参加者が偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②主催者または参加者が第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」の2つの制度がセットされています。		
	傷害部分	I型（宿泊なし）	II型（宿泊あり）
		死亡 500万円	死亡 500万円
		後遺障害 15～500万円	後遺障害 15～500万円
		入院（1日あたり）3,000円 通院（1日あたり）2,000円	入院（1日あたり）3,000円 通院（1日あたり）2,000円
賠償部分	対人	1名あたり 最高1億円 1事故あたり 最高2億円	
	対物	1事故あたり 最高500万円	
	見舞金	死亡 本人の	死亡 本人の
保険料			
加入できる人や対象となる活動			
保険有効期間			

各種NPO団体等の活動に 非営利・有償活動団体保険			
補償内容	ボランティア保険の対象外で、有償活動を行う団体が活動中に、①スタッフが偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②利用者などの身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」がセットされています。		
	傷害部分	Aプラン	Bプラン
		死亡 202万円 後遺障害 6～202万円	死亡 500万円 後遺障害 15～500万円
		入院（1日あたり）3,000円 通院（1日あたり）2,000円	入院（1日あたり）3,000円 通院（1日あたり）2,000円
		手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額	
賠償部分	対人	1名あたり 1億円 1事故あたり 2億円	
	対物	500万円	
	見舞金	死亡 本人の	死亡 本人の
保険料			
加入できる人や対象となる活動			
保険有効期間			

移送サービス活動に 移送中事故傷害保険			
補償内容	移送サービス事業の活動中に、車輛に搭乗中の加入者や利用者がケガをした場合、実施主体の責任の有無に関係なく補償します。		
	傷害部分	I型（車輛特定）	II型（車輛不特定）
		死亡 266.0万円 後遺障害 7.9～266.0万円	死亡 192.4万円 後遺障害 5.7～192.4万円
		入院（1日あたり）3,000円 通院（1日あたり）2,000円	入院（1日あたり）3,000円 通院（1日あたり）2,000円
		手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額	
賠償部分	対人		
	対物		
	見舞金	死亡 本人の	死亡 本人の
保険料			
加入できる人や対象となる活動			
保険有効期間			

市町村の社会福祉協議会へ保険料とともに申し込みください



三井住友海上火災保険株式会社

大阪金融公務部 第四課 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-4-9
TEL.06-6233-1536 FAX.06-6233-0204
ホームページ www.ms-ins.com

各種損害保険・生命保険取扱 **島本保険事務所**

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号
大阪センタービル2階（伊藤忠ビル）
TEL.06-6252-4520 FAX.06-6245-4686